

長久手市行政評価票 (A票：事業評価票)

事業番号	45	事業名	文化の家企画事業	担当部課	くらし文化部文化の家
基本情報	第6次総合計画・基本目標	5 いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪		決算書ページ	—
	行政改革指針・重点課題	7 市民参加の仕組みづくり		会計区分	一般会計
	法定受託事務の有無	有	文化芸術基本法(H29.6)、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次)、劇場法H24.6)	予算区分(款—項—目)	9-4-5 文化の家施設費
	その他(関係計画、要綱等)	有	長久手市第6次総合計画(H31.3)、文化芸術マスタープラン(H30.3)		
事業開始の背景、経緯等	長久手市は、歴史の中で培われ継承・発展してきた風土や伝統文化を持ち、周辺を含め大学が多数存在し、地域には学生や芸術家、専門家が多数在住している。このような地域の特性と市民一人ひとりの個性を活かしつつ、たくさんの方が協力して新たな魅力ある文化芸術の創造を図る。また、豊かな地域社会が織りなす質の高い生活空間を創出することによって、真に市民がゆとりと潤いに満ち、生き生きと暮らしている市を目指す。				
市民・民間事業者との連携協働の可能性	市民とのみ協働可		(両者と協働不可の場合はその理由)		

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市の文化芸術政策の基本理念『ともにも創る きらめく長久手』を実現するために、3つの基本方針のもと、6つの事業に取り組む。事業については、重点的な5つの施策を定め、今計画期間において特に力を入れて取り組む。これらの取り組みを基礎として、さまざまな分野に文化芸術を活用していく。
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民、近隣住民等(事業参加者数)
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 「暮らしが楽しい地域・環境の創出」「地域の活力の向上」「主体的なまちづくりの担い手の育成」「経済の活性化」などを實現、市民が地域に愛着と誇りを持ち、快適で魅力と活力あるまちづくり

項目	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
			(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)
事業費(A)	千円	予算	46,975	42,688	44,363	44,020	40,288
		決算	41,852	40,751	41,352	33,091	
人件費(B)	千円	決算	47,967	55,569	51,540	37,018	
総コスト(C)=(A+B)	千円	決算	89,819	96,320	92,892	70,109	
事業対象の数(D) (R2年度は想定数)	人		41,973	38,209	42,552	36,396	35,000
対象あたりコスト(C/D)	千円		2	3	2	2	

成果指標 (事業の意図を反映する指標)	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
			(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)
新聞等への掲載数	回	目標	50	50	50	50	50
		実績	60	29	37	52	
(指標の設定根拠)			(数値目標の根拠)				
新聞等へ掲載されることは、広域への周知のみならず、社会的インパクトを客観的に捉えるエビデンスとなるため。			・公演数や内容を鑑みて ・過去の実績の平均値より				
(前年までと変更した場合はその理由)							

これまでの振り返り	目標達成状況・分析コメント	(成果指標等の目標に対する達成状況・分析状況や進捗状況など) 昨年度は目標を達成できたが、年度によってムラがあるため安定した情報提供を心がけた。
	活動エピソード	(活動のエピソード、コメント、特記事項など) とくに中日新聞への掲載が圧倒的に多い、地域の取り組みを積極的に取り上げる意向と文化の家の地域密着型の事業展開がマッチしている。昨年は朝日新聞への掲載も増えた。
	改善ポイント	(改善が必要なこと、改善の方法など) 中日以外の新聞社へのアプローチも積極的に行っていきたい。

事業を構成する事務事業①	ホール公演事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
(1)	市民参加の延べ人数	人	見込	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000
			実績	22,675				
(2)	文化の家での学校鑑賞会開催回数【単年】	回	見込	1	1	1	1	1
			実績	1				
(3)	【アクションプラン】 (他部署と)連携して行う事業数【単年】	事業	見込	1	1	2	2	3
			実績	1				
<備考:活動の概要(R1年度(2019))>							今後の方向性	拡充
平成30年3月に改定された文化芸術マスタープランに基づき、今後10年の具体的な行動計画をつくる「アクションプラン市民検討会議」を9~3月にかけて市民館長を中心に行った。このなかで注目されたことは「子ども」へのアプローチを拡充すること、より多彩なジャンルへの展開であった。								

事業を構成する事務事業②	企画展示事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
(1)	市民参加の延べ人数	人	見込	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
			実績	16,707				
(2)	【アクションプラン】 アートのまちフェスティバル事業 来場者数【単年】	人	見込	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
			実績	18,564				
(3)			見込					
			実績					
<備考:活動の概要(R1年度(2019))>							今後の方向性	拡充
ながくてアートフェスティバル(NAF)は、文化の家をはじめとし市内のアトリエ、ギャラリー、カフェ、店舗などを会場として一か月にわたり美術作品の展示やワークショップが行われ18,564名の来場があった。絵画コンクール展示会は、小中学生の部が442名、一般の部が515名の入場者だった。								

事業を構成する事務事業③	アートスクール事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
(1)	市民参加の延べ人数	人	見込	150	150	150	150	150
			実績	125				
(2)	【アクションプラン】 新規受講人数【累計】	人	見込	100	130	160	200	240
			実績	73				
(3)	受講率	%	見込	100	100	100	100	100
			実績	104				
<備考:活動の概要(R1年度(2019))>							今後の方向性	拡充
アートスクールは、市民がみずからの文化活動を行い交流するきっかけづくりとしてバレエ、絵画、ギター、戯曲など13講座を開講。文化の家の多機能性を活かした他分野の講座を行った。								

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性)
	中長期の目標	(いつごろまでに事業を)

内部意見	総計計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	次ページに続く
	内部意見への回答	

事業を構成する 事務事業④	アウトリーチ事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
			実績	2,253				
(2) 【アクションプラン】 体験型の活動数【単年】	事業	見込	3	3	4	5	6	
		実績	3					
(3)	回	見込						
		実績						
<備考:活動の概要(R1年度(2019))> 月に1回文化の家のパブリックスペースで行われる無料のコンサートを9回行い、計545名の参加があった。市内の小中学校にアーティストを派遣する「であーと」を行い765名の生徒が参加した(コロナの影響で小学校5校が中止)。						今後の方向性	拡充	

事業を構成する 事務事業⑤	映像鑑賞会事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込	10	10	10	10	10
			実績	8				
(2) 【アクションプラン】 事業数【単年】	事業	見込	2	2	2	3	3	
		実績	2					
(3) 企画数	本	見込	10	10	10	10	10	
		実績	8					
<備考:活動の概要(R1年度(2019))> シネマ会議は、開館以来行ってきた映像鑑賞会を「市民にわたす事業」として、平成28年度より公募により組織された実行委員会の活動である。R1年度は、実行委員会の人数が8名となり、8月に行われた親子向けの上映会は130名、毎月光のホールで行われる鑑賞会は824名の入場があった(3月の上映会はコロナの影響で中止)。						今後の方向性	拡充	

事業を構成する 事務事業⑥	映像鑑賞会事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)	単位	区分	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)
	(1) 市民参加の延べ人数	人	見込					
			実績					
(2) 【アクションプラン(総合計画) 指定の指標】		見込						
		実績						
(3)		見込						
		実績						
<備考:活動の概要(R1年度(2019))>						今後の方向性		

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ホール公演事業では、親子事業や平日で高齢者をターゲットに事業を展開していきたい。企画展示事業は、市民で運営されるアートフェスティバルの内容を広く発信できる方法を協働で考えていきたい。アートスクール事業は、長年のマンネリを見直しながら市民のニーズに応えられる体制を作りたい。アウトリーチ事業は福祉施設へのアプローチに力を注ぎたい。映像鑑賞会は自立に向けた支援を地道に行っていく。
	中長期の目標	(いっごうまでに事業をどのような状態にしたいか) ホール公演は事業はすでに行っているがそのまま継続、企画展示とアートスクールは、いずれもこの2-3年の間に新しく参加する市民を増やしていきたい。アウトリーチは音楽中心から他分野へのアプローチを充実させたい。映像鑑賞会は、実行委員会としての意識を高めて自立した運営を目指していきたい。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・魅力的な事業を活かして、より多くの事業収入が得られるよう、方法を検討してください。
内部意見への回答		